

関西大学経済学部の授業「経済学演習」の中で、自治体が直面する経済問題を学生が取り上げ、これに関する調査・研究活動を行い、問題解決のための具体的政策提言をまとめました。



ゼミナールの様子①

活動の概要

目的	発見した政策課題と問題解決のための政策提言の地域への発信と、活動を通じた学生の能力向上
連携メンバー	大阪府吹田市 / 関西大学経済学部 本西泰三ゼミ
活動地域	大阪府吹田市および周辺自治体
活動期間	2010年頃～（継続中）
費用	自己負担（交通費程度）

連携の経緯

吹田市は、「まちづくり吹田学塾」の実施や、関西大学における講義科目「吹田市と関西大学」の担当など、市政の課題を情報発信し、市民と共に考える中で、問題解決の方策を探る地域連携に大変熱心な自治体である。一方関西大学では、政策教育の中で取り上げる経済政策上の課題と、研究を進めていく上で必要な情報提供先を求めていた。市政に関する情報提供の依頼に、吹田市にはいつも快く応じて頂いている。



ゼミナールの様子②

大学内イベントにおけるアンケート実施の様子

解決すべき課題

- (1) 商店街活性化
- (2) 放置自転車
- (3) ユニバーサルデザイン
- (4) スポーツ施設の民間委託方式
- (5) 災害発生時の防災協力
- (6) 千里ニュータウンの世代間交流
- (7) デートDV問題の啓蒙

大学の役割

学生は講義科目「吹田市と関西大学」に出席し、市職員による講義の中で、市政が抱える様々な政策上の課題について学ぶ。この講義の内容などから、学生は経済政策上の課題を発見する。政策課題に関する研究を進めるうえで、市の関係部局からの情報収集が必要となることも多く、学生がこの取材を担当する。アンケートの実施は学生が調査員として用紙の配布・回収を行うことを基本としているが、吹田市の側から協力の申し出を頂く場合もある。学生はこうした情報を元に、政策課題を解決するための政策提言内容を1年程度かけてまとめ、ゼミナール大会を初めとする研究発表の場でこの内容を報告する。こうした場で得られたコメントなどを元に、さらに1年程度かけて論文の内容を充実させ、最終的には卒業論文としてまとめる。卒業論文は調査にご協力頂いた吹田市の担当部局に送付させて頂いている。

成果

- (1) 学生の課題発見・政策提案能力向上および市政に関する理解の深化
- (2) 大会報告などを通じた関西大学及び他大学学生への情報発信
- (3) 吹田市への研究成果の報告

今後の展望

- (1) 現在の関係を維持し、今後も学生の政策提案能力の向上に努めたい
- (2) 吹田市からは教えて頂くことばかりだが、今後は発信を一層重視し、市政が抱える問題の啓蒙を促進したい

研究者の紹介



経済学部 教授
本西 泰三
(もとにし たいさう)

経済政策を教える中で、具体的な政策提案につながる教育の重要性を痛感し、学生には常に市の担当者や市民から得られる生の声を重視して研究を進めるよう指導している。